



別冊 **Computer Weekly**

CIO インタビュー 2013 年上半期総集編(試用版)

企業の IT 戦略を担う CIO、IT ディレクターなどの IT リーダーたちにインタビューする Computer Weekly の定番企画「CIO インタビュー」。上半期の記事から 7 つのインタビューを厳選し、再編集した。

目次

- 米ドミノ・ピザ
コリン・リース氏
- 英ブリティッシュ・エアウェイズ
マイク・クラウチャー氏
- 英シュローダー
マシュー・オークリー氏
- 英アライド・アイリッシュ銀行
アン・ボーデン氏
- 米インテル
クリス・ショー氏
- 英ユーロスター
クリストフ・ルメール氏
- 米デル
キャロル・フォーセット氏

「別冊 Computer Weekly」は、これまでに公開したコンテンツを特定のテーマにまとめて再編集したものです。

別冊 Computer Weekly CIO インタビュー-2013 年上半期総集編

目次



米ドミノ・ピザ コリン・リース氏

「ビジネスクリティカルなアプリをクラウドに移行できない理由は見当たらない」



英ブリティッシュ・エアウェイズ マイク・クラウチャー氏

「(顧客の分析を始めて) 航空会社というよりは小売業者的になっている」



英シュロダー マシュー・オークリー氏

「事業の成長に合わせてその成長を支えるシステムを提供する必要がある」



英アライド・アイリッシュ銀行 アン・ボーデン氏

「プライベートクラウドを導入したことで、商品をスピーディに投入できている」



米インテル クリス・ショー氏

「クラウドの利用率が 38%から 55%に向上し、560 万ドルの経費削減を達成できた」



英ユーロスター クリストフ・ルメール氏

「データベースには顧客の情報が大量にある。これは有効に活用されるべきだ」



米デル キャロル・フォーセット氏

「IT 部門はコンシューマライゼーションを受け入れる必要がある」

本 PDF は試用版であり、3 人のインタビューを閲覧いただけます。7 人全員のインタビューが収録されたフルバージョンは、以下の URL でダウンロード（無償）してください。

<http://wp.techtarget.itmedia.co.jp/contents/?cid=13702>

米ドミノ・ピザ コリン・リース氏 「ビジネスクリティカルなアプリをクラウド に移行できない理由は見当たらない」

米 Domino's Pizza で IT 戦略を担当するコリン・リース氏。新技術に対する同氏のアプローチは用心深く計算されている。同氏は、クラウドや BYOD、モバイルアプリの導入をいかに進めたのか？

(初出: [Computer Weekly 日本語版 7 月 10 日号](#))

Archana Venkatraman

「私は、流行のための流行には乗らないただ」と米 Domino's Pizza の IT ディレクター、コリン・リース氏は言う。

この言葉は、Web の達人であるリース氏の IT 戦略を如実に示している。新しいテクノロジーのトレンドを押さえつつ、実際の導入に際しては、会社にとって最適なオプションを見極めた上で時間をかけて移行するというのがリース氏の戦略だ。

「早めに学習を始めて、早めに知識を積み上げることが重要だ。そうすることで、社内の誰もが新しいテクノロジーに順応しやすくなる。これが、Domino's では IT に対して人の問題やカルチャーの問題がない理由だ」

リース氏の用心深く計算された IT へのアプローチは、Domino's Pizza におけるクラウドコンピューティングサービスの導入にも反映されている。

「石橋をたたいて渡る」クラウド導入

「クラウド」という語がまだ生まれて間もない 2011 年の時点で、リース氏は「Domino's Pizza ではクラウドを 1 つの選択肢として検討している」と発言している。ただしその当時は、パブリッククラウドでは同社に必要なサービスレベルを実現できるとは思えなかった。

しかしクラウドが成熟し、そのメリットがより明らかになってきたことで、リース氏はクラ



ウド導入を前向きに考え始めた。「クラウドコンピューティングは重要なテクノロジーだ。弊社ではクラウドの導入に向けて取り組み始めたが、リスクの少ない形で経験を積み、クラウドの知識を蓄積したいと考えている」

そこで、アプリケーションのテストと開発に IaaS (Infrastructure as a Service) と PaaS (Platform as a Service) を使用することにした。クラウドでテストおよび開発をするアプリケーションは顧客向けではないため、クラウドの評

価中に機能停止しても、Domino's Pizza の通常のデジタル受注サービスには影響しない。

「それに、開発チームは環境のテストにかなりの労力を割く必要があるので、クラウドのテストにはもってこいだ」（リース氏）という。

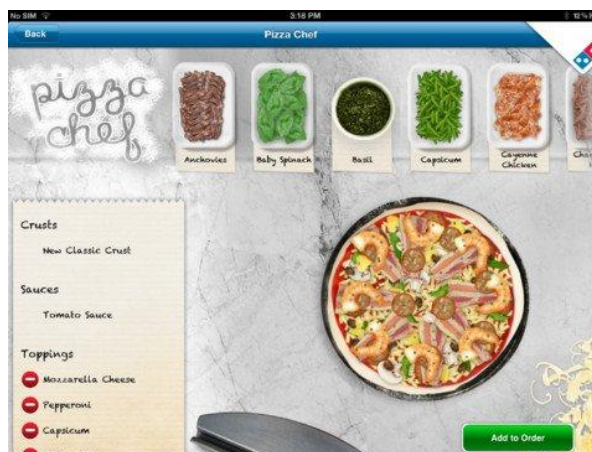
ビジネスクリティカルなアプリケーションのクラウドへの移行

1 年ほどこの方法でクラウドサービスを使用した結果、リース氏と IT チームは、Web サービスなどのクリティカルなアプリケーションをクラウドに移行することを検討している。

目的は、ピーク営業時のスケーラビリティとアジリティ（俊敏性）のメリットを得ることだ。

Domino's Pizza では、週末の夕食時と、好評な特別サービス“Two for Tuesday”（訳注）がある火曜日に注文のピークが発生する。リース氏によると、「2、3 時間で 1 日の大半の売り上げがある」そうだ。

夜間と週末の数時間のピーク需要に対応するため、たとえシステムが使われない時間帯があっても、常にピーク時のワークロードに合わせてシステムを準備する必要がある。これが、インフラの無駄と高い経費を生んでいる。従って、この部分にクラウドを利用すれば、大幅なコスト削減を実現できる可能性がある。



「ピーク状態の開発環境でクラウドを使用して、実際に幾つかのメリットを確認できた。現在は、Web サービスも含めて、クリティカルなワークロードをどのようにクラウドに移行するか検討を始めた」

リース氏のクラウド戦略は明瞭だ。ワークロードの 10% をクラウドに移行し、運用が軌道に乗り、経験値を蓄積したら、さらにワークロードを移行する。

「ビジネスクリティカルなアプリやモバイルワークロードも含め、ワークロード全体の 80% であってもクラウドに移行できない理由は見当たらない。ただし、時間をかけて、徐々に移行することになる」とリース氏は説明する。

Domino's Pizza では、米 Rackspace のクラウドインフラを採用した。特定のベンダーに縛られるよりも、オープンソースのクラウドを利用した方が、ワークロードを移行しやすいことが理由だ。また、既に Rackspace のデータセンター管理サービスを利用していたことも影響した。

「クラウドと社内の企業インフラとでベンダーを分けたくなかった」とリース氏は言う。

オープンソースクラウドを採用

リース氏が Domino's Pizza に入社したのは 2010 年のことだ。前職では、オンライン小売業者の英 Figleaves.com で IT ディレクターを務めていた。それ以前は、格安航空会社の英 easyJet で数年間、ソフトウェア配信の責任者などを務めている。

リース氏のキャリアにおいて、クラウドや IT コンシューマライゼーションなど、エンタープライズ IT エコシステムを揺るがすテクノロジーが登場した現在は、最もエキサイティングでやりがいのある時代だろうか？ その問いに対してリース氏は次のように答える。「そうだとは言い難い。easyJet で過ごし

訳注：火曜日は、1 枚ピザを注文するともう 1 枚無料で付いてくるというキャンペーンが行われている。

た数年は、絶えずイノベーションを起こし、ITの壁を打ち破ってきた」

リース氏にとって最大の難関の1つは、物理インフラから仮想インフラに移行したことだった。「会社固有のサーバを購入して管理するのをやめ、Rackspaceのテクノロジーを使ってITを仮想化したのは、大きな変化だった」と、リース氏は振り返る。

しかし「確かに現在、テクノロジーのイノベーションのペースはますます速まり、追い付けないほどになっている」とも話している。

顧客エンゲージメントを支えるイノベーション

現在のテクノロジー革命の中では、Domino's Pizzaのような小売業者が最も影響を受けている。端末の種類や時間を問わず注文できることが当然だと顧客が考えるからだ。

「簡単なことではないが、われわれは革新的であることに貪欲だ。弊社には、顧客により良いサービスを提供するためのデジタルソリューションを考案する専任のチームがある」

他のビジョナリーなCIOと同様に、リース氏の最終的な目的は、顧客にとって簡単で直感的なエクスペリエンスを提供できるように、会社のITおよびデジタル資産を整備することだ。「フランチャイズと顧客に素晴らしいサービスを提供できるITインフラにしたい。また、Domino's Pizzaの従業員にとっても、効率的なサービスを提供できるようにしたい」とリース氏は語る。

その際に「時間をかけて移行するメリットは、移行に対する恐怖心がなくなることだ」と言う。

データセンターのスケラビリティとセキュリティ

リース氏にとってクラウドの最大のメリットは、素晴らしいスケラビリティが得られるが、利用者はそれを気にする必要がないことだ。「現

在Domino's Pizzaには2つのデータセンターがあるが、クラウドなら瞬時にして20のデータセンターを用意できる」

リース氏は「現実とうわさを分けることも、課題の一部だ」と話し、クラウドコンピューティングの恐怖とセキュリティリスクにも動じない。

「現実には、内部のデータセンターでさえ、管理が悪ければセキュリティリスクは高くなる。実は、クラウドシステムを使った場合、信頼性が大幅に向上し、ダウンタイムが減っている。時と共に、クラウドと非クラウドの違いは薄れていくだろう」

ITコンシューマライゼーションの課題

しかし、コンシューマー市場にモバイル端末が雨後のたけのこのように登場し、BYOD（私物端末の業務利用）の動きが拡大する時代にあっては、リース氏が対応すべきテクノロジーはクラウドだけではない。

「BYODは避けられない。社会情勢の変化に伴う現象の1つだ」とリース氏は分析する。

売り上げの5割以上をオンライン注文が占めるDomino's Pizzaでは、iOS、Android、Windows 8用の注文アプリを提供している。

「最近、新しいiPad向けアプリをリリースしたところだ。これは、2013年を通して3番目に大きいモバイル関連のアップグレードになる」とリース氏は話す。新しいアプリの「Pizza Chef」という機能では、各種トッピングの絵を動かして好きなピザをグラフィカルに作るができる。また、注文時に割引やキャンペーンなどの特典も受けられる。

インタビューの最後にリース氏はこう話す。「2014年までに、さらにモバイルのサービスやアプリを拡充する予定だ。だが、やるべきことがまだまだある」

英ブリティッシュ・エアウェイズ マイク・クラウチャー氏 「(顧客の分析を始めて)航空会社というよりは小売業者的になっている」

英 British Airways で IT アーキテクチャの統括責任者を務めるマイク・クラウチャー氏に、他航空会社との合併やオンラインサイトによる小売業的なセールスアプローチについて話を聞いた。

(初出: [Computer Weekly 日本語版 8月7日号](#))

Angelica Mari

英 British Airways (BA) は 2 年前の大きな IT 役員人事を経て、厳しい経済情勢を生き抜くべく、インフラの近代化と顧客データの活用による収益増を軸に IT 戦略を展開している。

BA で 10 年以上にわたり最高情報責任者(CIO)を務めたポール・コビー氏は、BA とイベリア航空との経営統合後、2011 年に BA を後にした。現在 BA は、IT の統括責任者を 2 人置いている。IT アーキテクチャとデリバリーを指揮するマイク・クラウチャー氏と、IT 運用とインフラを指揮するスティーブ・ハーディング氏だ。両氏とも、ビジネスサービス担当ディレクターのフィリップ・オズモンド氏の配下になる。

「コビーの代わりはいなかった。そこで IT 組織を 2 領域に分けた」とクラウチャー氏は説明する。「ハーディングの役割はデータセンターを効率よく運営することで、私の役割は、変化を通じて部門を率いることだ」

BA では、この新しい組織構成で IT 部門の能率が向上していることから、CIO 職を復活させる計画はないという。

「IT 部門は業務部門にとっての IT プロバイダーになった。純粋に IT を専業とする部門に戻った」とクラウチャー氏は言う。



データという金塊

BA は、サービスの向上と売り上げの増加につなげるため、購買行動から収集した顧客データを最大限活用しようとしている。その鍵になるのが「Know Me」プログラムで、ターゲットマーケティングと、BA の旅客データおよび顧客のソーシャルメディア情報の最適化を図っている。

これは BA の副次的なセールスに生かされ、アドオン商品（ホテルやレンタカーなど）の販売またはアップグレードにより、1 フライト当たりの利益を増やすための工夫につながっている。「顧客との関わり方に関して、より幅広い情報を基に意思決定ができるようになった」とクラウチャー氏は話す。

「BA 自身と BA 以外の情報源に対してビッグ

データ（手法）を使っている。（BA のロイヤルティプログラムである）『アビオス』など、弊社のデータ以外も活用している。利用客がヒルトン H オナーズプログラムのメンバーで、そのポイントをためている場合は、マリオットではなくヒルトンホテルを提供できる」

「BA.com を始め BA のセールスの方法は変わった。現在は、航空会社というよりは小売業者的になっている。日を変えてさまざまなフライトオプションを提供するのではなく、旅行当日の宿泊施設を複数から選べるようにして、アップグレードした場合の価格を顧客が分かるようにしている」

BA の 1000 人強の IT 部門はある程度の分析に対応しているが、詳細なビッグデータ処理は社内では行っておらず、米 Opera Solutions などに外注している。外注先では、先進科学を使ってデータから予測パターンを抽出し、それを基に成果物を開発。BA に“~aaS”（サービスとしての~）の形で提供している。

「弊社はトランザクションデータの収集のみで、処理には関与しない。弊社で本当に求めているのはイベント駆動型の成果物で、これは外注している」とクラウチャー氏は言う。

今後数カ月をかけて、BA は社内でも生成されたデータをより効率的に活用する方法について、重要な決定を下す予定だ。BA では、メールとコラボレーションプラットフォームに「大規模な投資」を行う予定であり、現在、取引先候補と交渉をしている。

「BA は、ソーシャルメディア、コラボレーションツール、メールの社内利用に関しては遅れている。これについての戦略をまとめる予定だ」

英国重視のアウトソーシング

これまで BA の外注先は、NIIT や Tata Consultancy Services などインドのパートナー

だったが、最近は UK 寄りになってきている。

「コスト構造が適正なら、英国内のパートナーでも引けをとらないことに企業は気が付き始めている」とクラウチャー氏は話す。

「外注業務の一部を英国ベースの契約に切り替える算段をしていて、英国企業に委託したり、英国の腕のいい受託業者や旅行業のノウハウを持つ専門家への発注を増やしている。2 年前の BA なら、やらなかったことだ」

主要なパートナーの 1 社は FDM Group で、多くの英国の学士を採用している点が特に魅力的だった。また TCS には、インドの学士ではなく英国の学士を BA 関連の業務に割り当てるように依頼している。

クラウチャー氏が情熱を注いでいることに、未来の IT エキスパートの育成がある。同氏によると、2013 年には IT 専攻の新卒者を約 20 人採用する予定だ。また、BA でのキャリアアッププランを通じて、さらに 20 人の IT インターンを受け入れ、教育する予定だ。

今後の展開

BA の今後 18 カ月の IT ロードマップは確定している。それによると、IT チームが多忙を極めることは必至だ。「今後 1 年半以内に、SOA（サービス指向アーキテクチャ）フロントエンドが大きく変わる予定だ。これは、（受け身の）デリバリーではなく、（能動的に）“探索”するためのフロントエンドになるだろう。また、モバイルフロントエンドについてもさまざまなニュースを提供する見込みだ」

「テスト環境をクラウドに移行し、クラウドから社内にサービスを提供できるようにすることも予定している。妥当な分野については、積極的にデータセンターからクラウドに移行していく。多数のプロジェクトが進行しているが、われわれの仕事はそういうものだ」

英シュローダー マシュー・オークリー氏 「事業の成長に合わせてその成長を支えるシステムを提供する必要がある」

信用危機で不安定な市場に立ち向かう上で、大規模な IT オーバーホールがどのように役立ったか、英シュローダーで IT 部門を統括するマシュー・オークリー氏に話を聞いた。

(初出: [Computer Weekly 日本語版 5月29日号](#))

Karl Flinders

マシュー・オークリー氏は、法学の学位を取得してオックスフォード大学を卒業したが、IT にキャリアを転向した。11 年間スイスの投資銀行 UBS に勤務した後、資産運用会社のシュローダーに入社し、これまで 8 年にわたり IT 部門のグローバル統括者を務めてきた。

オークリー氏の職務は、ビジネスアプリケーションとインフラストラクチャが対象であり、シュローダーの 3000 人の従業員の IT 要件への対応が求められる。同氏は、5 万ポンド程度の小規模なプロジェクトから数百万ポンド規模の戦略的計画まで、常時 70~100 件の IT プロジェクトを監督しつつ、大掛かりな投資プログラムの計画を練ってもいる。これらを全て規制が厳しい環境でこなし、さらに IT 担当の常として、突然課された難しい要求に対応する必要もある。

シュローダーは、2120 億ポンド相当の投資を管理している資産管理会社だ。27 カ国で事業を展開し、ロンドンに本社を構える。金融業界の多くの企業とは異なり、シュローダーは現在も成長を続けている。その成長のおぜん立てをするのが、オークリー氏の仕事だ。ビジネスチャンスを生かせるように確実に IT を準備しておくことが、常に焦点の 1 つになる。「IT に対する要求は急激に高まり、IT 部門は規模が 2 倍になった」とオークリー氏は言う。

オークリー氏はロンドンから IT 部門を指揮し



ている。アジア太平洋地域はシンガポールに、欧州大陸地域はルクセンブルクに、南北アメリカ地域はニューヨークにそれぞれ拠点がある。拠点ごとに、オークリー氏直属の IT 統括者がいる。

シュローダーで最後に実施した大規模な IT 投資プログラムは、プラットフォームの入れ替えプロジェクトだ。2006 年に開始された 2 年間のプロジェクトで、バックオフィス刷新の取り組みの一環として 27 年間運用してきたコアシステムを置き換えた。このコアシステムは寿命を迎えていたため、置き換えが必要だった。

「タイミングが良かった。2008 年の世界金融

危機が発生した後では、プロジェクトを完了させるのは難しかっただろう」とオークリー氏は明かす。「バックオフィスのプラットフォームの寿命を 10~15 年延ばすことができた」

具体的には、社内開発したレガシーの投資管理システムであるポートフォリオ管理システム (PAS) を、デンマークの Simcorp が提供する詳細なカスタマイズが可能なソフトウェア製品「Dimension」に置き換えた。

PAS は他の数百個のシステムと連携していたため、置き換えにはかなりの労力を要した。完了まで 2 年間、3 万 8000 人日かけた。オークリー氏は、「これで、シュローダーの環境が整った」と話す。

このプロジェクトが完了して間もなく、景気後退と大不況に見舞われることになる。シュローダーでは大幅な人員削減は実施せずに済んだものの、裁量支出を削る必要があったという。「拡張性の目標は達成できた。ビジネスは劇的な成長を遂げ、インフラストラクチャもそれに合わせて拡張できている」

成長への布石を打つ

シュローダーは現在、投資およびデータシステムの改善を図る大規模プログラムの下で、資産運用事業への投資を進めている。このプログラムには、相互に関係する 12 のプロジェクトが含まれ、2、3 年を要する見込みだ。

「先のバックオフィスプロジェクトは、特定のシステムの導入を目的とした、対象が絞られた取り組みだった。現在進行中のプログラムは、さまざまな要件を対象としてい

る」とオークリー氏は説明する。「これは、多方面においてゲームの先手を打つための複合的な取り組みだ。目標は、成長を支えることだ。システムを改善しさえすればビジネスを育成できると考えるほど、IT 部門は愚かではない。システムは事業の成長に合わせてその成長を支え、新たなビジネスを効率よく管理できる機能を提供する必要がある」

そのためには、システムの拡張性を確保する必要がある。それには、投資システム、データプラットフォーム、エンドツーエンドプロセスの機能を強化し、できる限り良好なエコシステムを確立しなければならない。シュローダーでは、取引および発注管理システムをアップグレードし、新しい投資リスクツールとデータスクラブツールを導入する予定だ。

規制に対応する

金融業界は規制が厳しく、次々とコンプライアンス要件が課されるという流れが変わる気配はほとんどない。「大きな変更はつきもので、中には事前の通達が十分でないまま実施されるものがある」とオークリー氏は話す。

オークリー氏は、IT 部門はどんな状況にも即対応できる必要があるというのが信条で、最後



まで新しい規制について知らされないことが多い現状に愚痴をこぼさない。

「規制当局と金融サービスの IT 担当者間の連携が強まってほしいが、そのことに過度にとらわれないようにしよう」とオークリー氏は言う。

「われわれにも最初から知らされるべきだという思いから、いろいろと文句を言うものだが、時には問答無用でやらなければならないことがある。IT には、“目の前に課題がある、つべこべ言わずにやっつけよう”と、腕まくりをして現実的に取り組むタイプの人間が多く必要だ。規制を課した側との連携が深まるのがよいというのは正論だが、現実的には、IT 担当は求められるものをそつなく提供していかなければならない」

不意に突き付けられた難しい要求に対応する場合、通常は IT プロジェクトの要員確保を基に計画を練ることになる。「要員は遊んでいるわけではなく、全員に仕事が割り当てられている。予定外の物事に対応しなければならないので、プロジェクトポートフォリオ管理は複雑になる」(オークリー氏)

タブレット、BYOD、コンプライアンスの問題

オークリー氏は、一般的な IT 関連業務に取り組む必要もある。例えば、現在シュローダーではグローバルで Windows 7 へのアップグレードを実施している。また、インスタントメッセージと音声／ビデオ通信を利用するために、Microsoft Lync の導入も進めている。

シュローダーでは、iPad の業務利用も検討しており、既に営業チーム向けの iPad アプリをリリースしている。しかし、規制が厳しいということは、私物端末の業務利用 (BYOD) 制度は導入できないということだ。

「セキュリティの理由から、BYOD は導入していない。弊社ではデータを完全に保護できる

必要がある。タクシーに機密データ (が入った端末) を置き忘れたために、規制や法律に抵触して制裁を受けたり、信用を落とすリスクを安易に抱えるわけにはいかない」

ただし、シュローダーではモバイルデバイス管理ソフトウェア「MobileIron」で保護した iPad をサポートしている。また、米 Good Technology のソフトウェア製品を使って、スタッフが私物端末から仕事のメールや予定表にアクセスできるようにしている。

「iPad をサポートしているが、iPad は完全に会社のシステムに統合された端末ではない。業務用に iPad を購入したが、実際に仕事に使っていない人は多いと思う」(オークリー氏)

オークリー氏は、iPad が正真正銘の業務端末になることはないとしている。その理由として、次のようなエピソードを語ってくれた。

「Windows を運用している場合、そのシステムと通信できるものが欲しいと思うだろう。あるイベントで (米 Microsoft の CEO) スティーブ・バルマー氏に“いつごろ iPad の問題を解決するつもりか? iPad と Microsoft システムがネイティブで通信できるようになるのはいつか?”と尋ねたところ、“その問題が解決されることはないだろう。われわれは仲間ではない”という答えが返ってきた」

そこで、オークリー氏は Microsoft Surface や同様の端末に期待を寄せている。「Windows 8 Pro なら、ノート PC と同等のモバイル端末になるかもしれない。そうなれば素晴らしい。だが、Surface が iPad のような端末になることはないと思う。Surface は何かのプロトタイプのような。いずれ iPad よりも Surface を選ぶことになるかもしれない。Microsoft がそのタブレット PC 構想を実現できれば、してやったりという結果になると思う」

別冊 Computer Weekly CIO インタビュー 2013 年上半期総集編のご案内



「CIO インタビュー 2013 年上半期総集編」は、試用版の 3 人に以下の 4 人を加えた 7 人へのインタビュー記事で構成されています。

- ・アン・ボーデン氏 (英アライド・アイリッシュ銀行)
- ・クリス・ショー氏 (米インテル)
- ・クリストフ・ルメール氏 (英ユーロスター)
- ・キャロル・フォーセット氏 (米デル)

「[CIO インタビュー 2013 年上半期総集編](#)」をダウンロードするには、TechTarget ジャパンへの会員登録 (無料) が必要です。まだ TechTarget ジャパンへの会員登録がお済みでない方は、この機会にぜひご登録ください。

「CIO インタビュー 2013 年上半期総集編」ダウンロード

※会員登録がお済みでない場合は、途中で会員登録画面に移行します。

本 PDF に掲載した CIO インタビューは、PDF メディア「Computer Weekly 日本語版」の連載を再編集したものです。「Computer Weekly 日本語版」は、CIO インタビューの他に IT 市場分析や導入事例、特集記事といった記事で構成されています。こちらも TechTarget ジャパン会員の方であれば無料でダウンロードすることが可能です。



TechTarget ジャパンとは

「TechTarget ジャパン」は、企業内の情報システムに関与するキーパーソンを対象に、IT 製品/サービスの導入・購買を支援する情報を提供する会員制 Web メディアです。会員登録することで、IT 導入や運用管理に関する技術資料 (ホワイトペーパー) やリポートが閲覧でき、自分の興味や必要性に合致した情報を、的確かつ迅速に入手できます。

Computer Weekly 日本語版 バックナンバー



Computer Weekly 日本語版 1月8日号:オープンソースハードウェアになるデータセンター

オープンソースのハードウェアで 24%のコスト削減と 38%の省エネ化を実現している Facebook。オープンソースハードウェアは今後主流となるのか？ 他にもソーシャルメディアを活用するゲイツ財団の事例、空港 CIO へのインタビューなどをお届けする。



Computer Weekly 日本語版 12月18日号:Windows Server 2012 R2 徹底レビュー

Microsoft の最新サーバ OS 「Windows Server 2012 R2」 の新機能を 7 ページにわたって徹底紹介。さらに、iPad と Wi-Fi を活用するアパレルショップの事例や IKEA の CIO に聞く同社の IT およびモバイルアプリ戦略などをお届けする。



Computer Weekly 日本語版 12月4日号:iPad に勝利した Windows 8 タブレット

導入しかけた iPad を止め、Windows 8 タブレットに切り替えた導入事例。担当者の決断は正しかったのか？ 他にも Windows Server 2012 R2 のクラウド管理機能の分析、ソーシャルメディアにおけるセンチメント分析のリスクと可能性、恒例の CIO インタビューなどをお届けする。

別冊 Computer Weekly
CIO インタビュー-2013 年上半期総集編
編集:TechTarget ジャパン
発行:アイティメディア株式会社